

鹿島市総合教育戦略会議（第3回） 議事録（概要版）

- 1 開催日時 平成27年8月6日（木）9時59分から12時00分まで
- 2 開催場所 鹿島市役所3階 庁議室
- 3 出席者等
 - ・法定構成員 樋口市長、田中教育委員会委員長、江島教育委員会教育長、中島教育委員会委員、光武教育委員会委員、木原教育委員会委員
 - ・市長部局 橋村総務部長、打上市民部長、大代総務課長兼人権・同和対策課長、橋村福祉事務所長、事務局（総務課職員 江頭、原田）
 - ・教育委員会部局 染川教育次長兼教育総務課長、藤家教育総務課課長補佐、古川指導主事
 - ・外部関係 なし
 - ・傍聴 一般 1名 報道機関 1社
- 4 協議又は調整した事項（確認事項含む。）
 - (1) 平成27年度 総合教育戦略会議 スケジュール案 について
 - ・前回までに協議した結果に基づき、今年度の総合教育戦略会議の予定について事務局で作成したスケジュール案で確認。
 - (2) 第2回鹿島市総合教育戦略会議（7/3開催分）の議事録素案について
 - ・議事録素案の内容を確認。
 - (3) 前回協議内容の整理及び資料の説明について
 - ・前回の協議事項「鹿島の子ども達の学力について」の中で議論となった事項を整理して説明
 - ・前回の協議時に話題になった「小学校中学校の学習指導の取組」「教員になるため」「教科書制度について」の3点について資料を基に説明
 - (4) 鹿島の子ども達の学力について（前回の続き）

5 出席者の発言

司会：橋村総務部長

1 開会（橋村総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 改めておはようございます。このところ鹿島は色んな行事が重なっております。例えばおしまさんだとか、あるいは浜には他所の国の大学生がいっぱい来たとかですね、明日からは鹿島おどり、花火大会、目白押しですが、それはそれとしてそういうことも含めて子ども達とどういう関連があるのか等々頭に置きながら我々は考えていかないといけない。この戦略会議もルーティン化したといえますか、これからいよいよ本当の意味でギアがトップに入るのではないかと考えておりますのでよろしくお願いをしたいと思います。

3 確認事項

(1) 平成 27 年度 総合教育戦略会議 スケジュール案 について

（大代総務課長説明 大綱を定めるまでは月 1 回を目標に回ごとにテーマを掲げ協議をする。そのテーマは意向調査に基づき、12 月まで、テーマを絞り、学力、ふるさと ICT 教育といったものを話し合ってください。それを基に事務局で大綱の素案の策定作業を行う。年明けに鹿島の子どものあり方、大綱の素案の提示、協議、3 月に確定というスケジュール。その間、年度内で市長と P T A、区長会との懇談会を開催して、民意を反映させるということで実施していく。大綱の素案はパブコメと議会への提示）

- ・議会がある月もするという計画でいいか。
- ・基本的に議会のある月もやるということで考えている。

(2) 第 2 回鹿島市総合教育戦略会議（7/3 開催分）の議事録素案について

（大代総務課長説明 事前配布した第 2 回議事録要旨案。承認後、公表。8 月 1 日号の市報で議事録を公表している旨の記事の掲載）

橋村総務部長 一応お目通ししていただいているかと思えますけど、何かございましたでしょうか。承認いただいたということでもよろしいでしょうか。

(3) 前回協議内容の整理及び資料の説明について

（大代総務課長説明 今回の協議テーマも前回と引き続き学力ということなので、前回の協議内容について、事務局で整理したものを説明。

① 学力、取組等への評価について（学習状況調査結果、学習状況調査意識調査結果の評価、学力向上の取組（朝夕の時間帯など取組）の効果の有無、市外中学校へ流れることによる影響、以前からの学力の変遷）、② 子ども達について（クラスの人数（昔は 50 人今は 30 人程度）、教わるレベルが高くなった？、勉強への集中、心構え、学習意欲）、③ 先生について（採用の方法、教えるレベルは向上？、教育以外で忙しくなった）、④ 家庭、地域などの社会環境について（家庭での過ごし方（ゲームなど）、規則正しい生活環境（早寝早起きなど））、⑤ その他（学力向上は必要なのか？（先生方は危機感）、教科書の選定方法について）

（古川指導主事説明 前回の協議時に話題になった「小学校中学校の学習指導の取組」「教員になるため」「教科書制度について」の 3 点について資料を基に説明）

- ・教科書選定の過程において外部の方は入るのか。
- ・研究委員会の中には保護者は入らない。選定委員会の中には太良嬉野鹿島 3 市町あるので、一人ずつ入っていただく。採択地区協議会にも各市町一人ずつ入っていただく。協議会の中で選定委員からの全ての教科に関する報告を聞き、最終的に決定をしていくという形。保護者の方には採択地区協議会の中では全ての教科についての報告を聞いていただく。

橋村総務部長 4 番目の協議事項に入ります。ここからは総合教育会議運営要綱第 4 条第 2 項に基づきまして議長を市長にお願いしたいと思います。それでは協議事項鹿島の子ども達の学力についてということでもよろしくお願いします。

4 協議事項 「鹿島の子ども達の学力について（前回の続き）」

- ・資料③の説明、小中学校の学習指導の取組、これを読んだら何もすることない、ちゃんとしてある、それで学力が低いと、何の問題があるのかと言われ、要するに何も悪いことは書いてないし、何もしなくて良いだろう、鹿島は上手くいっているのねという話になってしまう。
- ・学力向上対策委員会の中では取組はやっているんだろうけれども、その継続がどうなのか、徹底をどこまでやっているのかというのが課題としてあがってくる。
- ・なら、今から右肩あがりです上がっていく、継続的にやっていくのだから下がるはずがないという話になる。
- ・この全てを全ての学校でやっているわけではない。全てやっていたら、時間が足りない。やっぱりどこかにポイントを絞らないといけないという状況。
- ・そのとおりと思う。どこかポイントを置く必要がある、そういうことが出てこない

と対策が打てない。そこを探るのがこの会議の一つの目的。

- ・学力向上対策シートに記録をして、それを基に対策をとっている。
- ・そのシートはいつ頃から？
- ・3年ぐらいになる。
- ・福岡の友達から聞いた。この頃、福岡は土曜日授業があっているということ。月1回土曜日とか、そういう考えはあるのか？
- ・全国的に話題になっている。どうしても社会体育などがあるから、全員が土曜日来ることができる状態にはない。県で統一してやるならばできないこともない。週五日制の趣旨は、地域で、家庭で子ども達をしっかりと育てましようということなのに戻すことについてどうなのかという意見もある。夏休みを短縮するという考えもできる。
- ・土曜日授業があった方が、ほとんど共働きの方が多いと思う。土日、社会体育とかで無理であれば夏季休業を短縮して早めに授業に戻すという方向でもいいのではないかと思う。
- ・それは授業時間が増えれば学力が上がるという前提がある。
- ・学力状況調査をどう捉えるのか。子ども達の状況、どこが良くてどこが悪いのかということを見定めて、それに対してどういう対策をとるか、これが調査の目的。これまでのテストを事前に何回も繰り返し挑戦させてやれば確かに点数は上がるかもしれない。点数が上がったからそれで良いのか、ということで終わってしまう。本当は隠れたところできていないのかも分からない。点数ばかり先走ることについてはどうかと思う。
- ・教育以外で忙しくなったとある。今回の資料作成これはどれくらい時間かかったのか？勤務時間内で他のものをしながらこれを作る時間というのは十分あったのかということが一つ。行政調査があっているが、今は電子メールで締め切り期限が短いものが突然やってきた経験がある。そういったものに対する先生達の多忙感みたいなものがありはしないか。7月の新聞に先生が学校に居る時間が12時間、副校長は13時間という記事があった。以前はもっとゆったりとした夏休みを過ごせていた。自分の専門の教科、専門以外でも普段できないような研修ができる時間というのがあった。教育以外で忙しくなったというのが本当にあるのではないのか。本当に子ども達に向かって集中して部活、授業あるいは補習授業ができるようになるというのと常々思う。
- ・調査ものは増えている。いかにそれを効率的に捌くかということだが、事務の共同実施ということで、昔は事務職員があまりタッチしてこなかったことを今少しずつタッチしてもらうようになっている。授業以外でやっている仕事を他の方にやって

いただくような体制作りというのがどうしても必要と思う。

- 教育以外で忙しくなったという実感を先生以外の人は実は思っていないのではという心配がある。さっき言われたように夏休みは長くあって、そんなに忙しい職業だとは思っていないかもしれない。教育という言葉の意味が、教育以外で忙しくなると、先生は教育が商売、それ以外で忙しくなると何をしているのとなるといけなないので、しなくていいことをしているというふうに説明しないとけない。教育の内容が広がったのかもしれない、その実感がよく分からない。例えば授業は増えていない、日数は減っている、そうすると先生はそれ以外にどういうことをやっていたのか、今はしている昔はしていなかった、こういうことを説明しないと忙しいと実感が湧かないということ。
- 福祉教育に関する条例というのが鹿島市にある。学校に義務付けようということで1校当たり何十万円か予算を組んでやっていた時代がある。その当時学校でもかなり抵抗があったのを覚えている。
- 導入された頃は大掛かりな取組として始まり、時間がとられるし、大変だという負担感があったと思う。今はそんなに大掛かりではなく、できる範囲でやろうという形でやっているの、そんなに負担感はない状況。
- 忙しくなったという意味が、そういうしなくていいことをやってもらって忙しくなったのか、本来しないといけない内容が膨らんだのか、今もそれはしてある。
- 内容は段々膨らんでいる。事務処理は増えた。
- 教員は去年こうしたのでこのぐらいで良いではなくて、去年こうしたので、もうちょっと膨らまして、もうちょっと向上させて
- 忙しくしているのは役所。
- ある意味それで県教委も認めている。県教委としても減らそうとは努力はされているが、なかなかそれが減らしきれない状況。
- 教育に費やす時間がいわば限界というか、中身が増えたか、忙しくなって教育に手が回らないという話になって、つまり学業に影響すると見ていいかどうか。
- 子どもと向き合う時間が昔と比べ減ったという状況にはある。
- 授業参観がある。小学校の場合特に見せるような授業参観が多いんじゃないかなと思う。準備が大変じゃないかと思う。授業そのものを見せた方が良いのではないかなと思う時もある。
- 教育委員会で学校視察をする。その時に先生達が資料を作って、準備していらっしゃる。そういうことが先生達の負担になっていのではと学校視察に行くたびに思う。
- 学校訪問は今でも先生方の資質の向上というふうに捉えている。こういったものを年に1回はやってしっかり自分自身で考えていただく。そして準備をし、授業を見

- ていただいて助言を受ける、そういった機会と捉えている。これを減らしたらどうなるかなと心配する。今度はその中で勉強しなくなるということも予想されるかと。
- ・あくまでも我々が行く時に、キチッとした資料ができていたので、これを作るのは大変だろうなという感想があったので言ったのであってその趣旨そのものをなくしてということではない。
 - ・忙しいというのは分かる、それは昔からそうだったのか最近急に手が回らなくなったのかというところがよく分からない、昔はこれだけやって、最近はそれ以上にすむようになったというのが分かれば、忙しくなって大変だから子ども達の学力が落ちていったのかなという話になるかどうか。
 - ・確かに報告書などを作って提出するという部分で言えば昔の学校と比べて今の学校はそういうものに時間を割くことが多くなっているというのは外から見て感じる。
 - ・何が忙しくなったんですか？他人に分からせるようにするために、一番分かりやすい事例は？
 - ・校長で言えばヒアリング実施状況調査があって、昔はなかったが、先生方と話したり、指導したりした内容を県に提出しないといけない。最近ではいじめの報告書。学校に来ている子どもの中に住民登録していない者がいないかどうかについての調査、最近はそういうことがあると調査がある。
 - ・今言われた中の幾つかは校長先生ではなくて、そういう専門とかサポーターを置いておけばいいという話。教育の中身が忙しくなったということはある？
 - ・生徒指導について、何か問題行動があったとき、それを誰か一手に引き受けて対応する方がいれば違うかもしれないが、関係している担任や生徒指導主事でないとは対応できない、問題行動が増えればそれだけ仕事量に
 - ・職員の数は様々な加配で、昔からすれば少しずつは増えた。今は頭打ち。今はLD、ADHDの子ども達ということで通級指導教室を作っており、需要は増えているが、加配がなくなったりしている。
 - ・その分が担任の先生にプレッシャーがかかるという意味ですか？
 - ・例えば一人子どもがおれば誰かが対応しないといけない。
 - ・もしかしたら昔は対応していなかったけど、今はちゃんと対応するようになったということを見せてやればいい。
 - ・確かに見に来ていただく機会を増やせばいいかもしれない。しかし、保護者は保護者で仕事が忙しいと、本当はそういった問題を抱えている子どもさんの親さんに見に来てほしいけれども、なかなかそういう保護者の方の理解がないというのがあるのかなと
 - ・電子化ということで楽になった面はある。通知表は手書きだったが、今は手書きで

- なくてもいい、高校へ提出する調査書も昔は手書き、これも電子化して出している。
- ・ 前回の時に先生の質についてという質問があったかと思う。やっぱり質は向上させなくてはならないということで、配置の仕方によっても違うという実感があった。
 - ・ 心配なのはそもそも資質に欠ける人
 - ・ 校長が授業を見て回って、その方が厳しいなということであれば県教委に報告して研修、研修させてもダメならばやめてくださいよと。
 - ・ メンタル的に長期休業、休んでいる方の数字は？
 - ・ 少しずつ増えている。
 - ・ 昔、指導力不足でやめた先生はある。採用する時も見抜けない、だから今大学の方で大学の時代に現場に行って研修するという方向ができつつある。
 - ・ 親がいないので弁当配るという予算を組んだがどうなっている？
 - ・ 対象が 3 件ほどあって、家庭児童相談員から勧めてもらっているが、親の理解がなくて配食には結びついていない状況。お金もかかるということもあると思う。もう一つが介入されたくない。高齢者の方や障がい者の方と同じく安全確認を兼ねたところだという思いで準備はしてはいる。
 - ・ 準要保護に該当するような世帯の保護者にどうですかと言っても断られる。強引に家まで行って印鑑押してそれでやっと準要保護になったというケースもある。家庭的に厳しいところがある。そういった家庭の子どもさんは勉強もなかなか
 - ・ 最近学校からあがってきた報告であいさつが良くなってきましたというものが上がってきている。学校の方であいさつ運動ししっかり取り組んでいただいている。
 - ・ そういう話になると、別に学力をあげるのではなくて、立ち振る舞いとか躰とか、そういった大綱にするかどうか。
 - ・ あいさつできるというのは効果的で、他の面でも授業もそうなるし、部活動でもそうなるし、こういった面はどんどんやっいていこうを思う。
 - ・ 生活習慣は大事。それがきちんとできていけば学力も向上するんじゃないのかなと思う。規則正しい生活習慣ができないという、今の配食をしなければいけないというところは増えていっているんですか？
 - ・ 今は要保護の家庭の相談体制が毎月あっている。それは各児童の家庭をどうフォローするかという会議であって、見る限り 100 件以上の家庭で色々な問題を抱えていて、教育以前に家庭生活を維持していない、鹿島の子ども達の環境が悪くなっているというのがある。
 - ・ そうするとそもそも学力どころかちゃんとした健全な社会生活のために大人になるためには違うところをてこ入れせんばいかんという話になる。
 - ・ 色々な問題があって、いじめだ、非行、中退、受け入れる高校もない、学力がなか

ったら就職もない、生活困窮に陥り、そうなる生活保護と、悪循環が目に見えている。親の教育、育ち合い、子どもの頃から赤ちゃんと触れ合うことで結婚観、子育ては大事なことを学ぶことが根本。そこを上手くやっていったら、保護者がしっかりしてきてしっかりした家庭を築いて子育てもしっかりとできてその子どももしっかりなる。

- ・家庭の教育力をいかにして上げるかということが話題になっているけれども、やっぱり地域がそれをしっかり見守ってやるという体制づくりが必要と思う。
- ・育友会というものがある、これはどういう役割を果たしているのか？
- ・プールに行ったり、レクレーションをして地域の子ども達と親の繋がりを
- ・そういうところで親達同士がしっかり繋がりがよければまた違う。先日も市子連、子ども達の球技大会があったけど、予選会があり各地区から選ばれて来ている。そういう組織はあるが、一過性というか、単位的な感じで一年間通じて何かをするというわけではないのでは
- ・構造的なものだと少し長期に永続してサポートするシステムを作っておく必要はある。
- ・個人的な考えだが、コミュニティスクールという体制を全ての学校に広げていきたいと思っていて、そういう枠組みを作れば関与せざるを得ない、そうでもしないと地域のつながりというのは希薄になっていくばかりではないかなと思う。今年から鹿島小学校に広げようとしているし、あと他の地区にも広げていきたいと思う。
- ・学校担当者は忙しくなりますね。
- ・市の予算で配置していただければ違う。2校に一人とか。
- ・コミュニティスクールが明倫小学校に導入されてから何年か経つ。問題点と成果をある程度見ないといけない。
- ・効果は上がっている、課題として上がってくるのがその仕事をする人がどうしても自分の仕事に影響する。最初は加配があっていたが2年間で終わって3年目から加配がない。やっている内容を減らすしかない。けれども昔と比べれば増えてはいる。だからそういったことをしてくれる人が欲しいと情報が上がってくる。
- ・できなかつたら思い切って何かを減らす、又は専念し、何でもかんでもしているから忙しくなる。
- ・何でもかんでもしないといけなくなっているという感じは受ける。
- ・先程の家庭の話が出てきたけれども、ひとたび何かあれば必ず家庭訪問に行かないといけない、その行く回数が増えていく、それも大変。

橋村総務部長 それでは長い間、ありがとうございます。結論というのはどこにある

のかなというものもあろうかと思います。議論していただくことで素案に向けた材料とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

5 その他

橋村総務部長 その他の方で次回の開催日ですが、次回については 1 ページの方に掲げていますように「ふるさと教育、ICT教育」ということで予定しておりますのでよろしくお願いいたします。予定といたしましては 9 月 1 日、この総合教育戦略会議は 10 時から予定ということで

江島教育長 ICT教育を話題にするわけですね、そうしたときに例えば電子黒板とかあれば。

樋口市長 それを見に学校に行く、場所にこだわる必要はない。

大代総務課長 学校現場に行って総合教育会議をしても構わないということですね。

橋村総務部長 そしたらちょうど良い時間になっておりますので、この会議を閉じさせていただきます。何かあったら、私達の方に申し出ていただければと思っていますので、よろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

(12:00)

- ・ 次回開催日 9 月 1 日 (火) 10 時 00 分から
テーマ「ICT教育、ふるさと教育」